

わくわくワークるんだ商店街事業の効果 ～保護者・子どもへのアンケート調査から～

1090464 田所知紗

高知工科大学工学部社会システム工学科

「わくわくワークるんだ商店街」に参加した子どもやその保護者の意識が参加する前と後でどのように変化したのか明らかにするためにアンケート調査を行った。その結果、「普段と子どもの挨拶の状況」、「金銭に対する意識」等に大きな教育的効果をもたらしたといえる。

Key Words : 商店街、職業体験、イベント、子どもやその保護者の意識、アンケート調査

1. 研究の背景

私はインターンシップがきっかけで『わくわくワークるんだ商店街』の第2回にボランティアとして参加した。普段は子どもがあまり訪れる機会の少ない大橋通り商店街に子どもが大勢集まっている光景に驚かされた。また、実際に職業体験をしているときの子どもたちの真剣な姿や、楽しそうな姿が、とても印象に残っている。子どもたちにとっては、よさこい祭り以上に魅力のあるイベントなのではないかとも思った。

そして、この「わくわくワークるんだ商店街」が子どもたちに、そして、保護者に、どのような影響を与えたかを知りたいと思った。

2. 研究の目的

「わくわくワークるんだ商店街」に参加した子どもやその保護者の意識が参加する前と後でどのように変化したのかアンケート調査によって明らかにする。

3. アンケート調査の方法

3.1 調査の対象者、調査時期、配布・回収方法

調査対象者は、「わくわくワークるんだ商店街」に参加する子どもとその保護者全員とする。

調査時期は、「わくわくワークるんだ商店街」参加前と参加後の2回とする。

配布方法は、郵送とする。

回収方法は、参加前アンケートは「わくわくワークるんだ商店街」当日に持参してもらい、参加後アンケートは郵送とする。

3.2 アンケート調査の内容

アンケート調査の内容(項目)は表1のとおりである。特に、子どもの参加前の意識と参加後の意識の変化を『参加して身に付けたい(付いた)こと』『普段の子どもの挨拶の状況』『大人になってやりたい仕事』『金銭に対する意識』で見ることとした。

表1 アンケート調査の内容

	参加前	参加後
子ども	1. 記入者の属性	1. 記入者の属性
	2. 参加したい職業体験の希望	2. 参加した職業体験
	3. 参加して身に付けたいこと	↔ 3. 参加して身に付いたこと
	4. 普段の子どもの挨拶の状況	↔ 4. 参加してからの子どもの挨拶の状況
	5. 大人になってやりたい仕事	↔ 5. 大人になってやりたい仕事
	6. 金銭に対する意識	↔ 6. 金銭に対する意識
	7. 参加の理由	7. 職業体験をして嬉しかったこと
	8. 高知県内のイベントの参加状況	8. 参加した感想
	9. 休日の過ごし方	9. 次回への参加の意欲
保護者		10. 今回あった職業以外に体験したい職業
	1. 記入者の属性	1. 記入者の属性
	2. 職業体験への期待	2. 職業体験への満足度
	3. 「商店街で行うこと」への可否	3. 「商店街で行うこと」への可否
	4. 参加させようとした理由	4. イベントに対しての関心度
	5. 子どもに対する教育方針等	5. イベントに対しての満足度
		6. 今回あった職業以外に体験させたい職業
	7. 商店街でやってほしいイベント	

4. 第3回わくわくワークるんだ商店街事業の概要

4.1 開催の目的

『家族で親しみやすいまち』をテーマにし、子どもたちに商店街の職業（仕事）を体験してもらうことにより、買い物だけではない商店街の魅力を、体感してもらうことによって、親子で訪れる場として商店街の存在感を高める。また、大人の職業を体験してもらうことによって、子どもの『夢』にむかっていくきっかけに寄与する。そして、これを機会に商店街が従来になってきた教育機関としての働きを取り戻し、家庭と学校の間としての子どもの健全育成の場という機能の再構築のきっかけにすることを目的とする。

4.2 開催の日時・場所

(1) 日時

2008年11月9日（日）

午前11時～午後4時

(2) 場所

大橋通り商店街アーケード内

4.3 開催の状況

(1) 参加対象

小学校高学年（4～6年生）・150名

(2) 職業の内容

放送局 フォトスタジオ 和菓子屋さん 鯉節屋さん 証券マン るんだマーケット 活け花 ネイルアート CAFE ベーグル 新聞記者 宝石磨き 宅配 警察官 鯉のたたき にせ札鑑定団 銀行マン おもちゃ職人 裁縫屋さん NTT電話工事 看護師 エスコーターズ 漫画家 弁当屋 自衛隊 消防士

(3) 参加企業

商店街組合員 6店舗

協力企業、機関 21社

5. 子どもの参加前アンケートと参加後アンケートの比較

5.1 参加して身に付けたいこと（身に付いたこと）

(1) 仕事の楽しさ

参加前と参加後とも「仕事の楽しさ」が1番であった。

男女別に見てみると、男の子は、参加前は39.6%であったが、参加後は44.4%であり、4.8ポイント増加している。

学年別に見てみると、6年生は、参加前は35.7%であったが、参加後は53.3%であり、17.6ポイント

増加している。

(2) あいさつすることの大切さ

参加前では5番目であったが、参加後では3番目となった。

学年別に見てみると、6年生は、参加前は0.0%であったが、参加後は6.7%であり、6.7ポイント増加している。

(3) 感謝することの大切さ

参加前では4番目であったが、参加後では5番目となった。

参加回数別に見てみると、2回目は、参加前は4.8%であったが、参加後は10.0%であり、5.2ポイント増加している。

(4) マナー

参加前では5番目であったが、参加後では4番目となった。

学年別に見てみると、6年生は、参加前は3.6%であったが、参加後は13.3%であり、9.7ポイント増加している。

参加回数別に見てみると、2回目は、参加前は0.0%であったが、参加後は20.0%であり、20.0ポイントと著しく増加している。

(5) はたらいてお金をもらうことの大変さ

参加前と参加後とも「はたらいてお金をもらうことの大変さ」が2番目となった。

参加前は25.5%であったが、参加後は32.7%であり、7.2ポイント増加している。

学年別に見てみると、4年生は、参加前は22.6%であったが、参加後は36.2%であり、13.6ポイント増加している。逆に、6年生は、参加前は25.0%であったが、参加後は13.3%であり、11.7ポイント減少している。

(6) 商店街の楽しさ

参加前では3番目であったが、参加後では4番目となった。

男女別に見てみると、女の子は、参加前は14.3%であったが、参加後は3.1%であり、11.2ポイント減少している。

学年別に見てみると、6年生は、参加前は17.9%であったが、参加後は6.7%であり、11.2ポイント減少している。

5.2 挨拶の頻度

「だれとでもあいさつできるようになった」「近所の人や友達など知っている人にはあいさつしている」を『あいさつする』とし、「ほとんどできない」「まったくできない」を『あいさつしない』とすると、『あいさつする』という割合が参加前は91.1%、参加後は98.0%で、『あいさつする』が増加している。

(1) だれとでもあいさつできるようになる（なった）

参加前は29.7%であったが、参加後は55.4%であり、25.7ポイントと大きく増加している。

男女別に見てみると、女の子は、参加前は 27.8%であったが、参加後は 55.4%であり、27.6 ポイント増加している。

学年別に見てみると、4 年生は、参加前は 27.4%であったが、参加後は 61.7%であり、34.3 ポイント増加している。

(2) 近所の人や友達など知っている人にはあいさしている (するようになった)

参加前は 61.4%であったが、参加後は 42.6%であり、18.8 ポイント減少している。

男女別に見てみると、女の子は、参加前は 67.0%であったが、参加後は 43.1%であり、23.9 ポイント減少している。

(3) ほとんどしない (できない)

参加前は 6.9%であったが、参加後は 1.0%であり、5.9 ポイント減少している。

参加回数別に見てみると、はじめでは、参加前は 8.3%であったが、参加後は 1.1%であり、7.2 ポイント減少している。

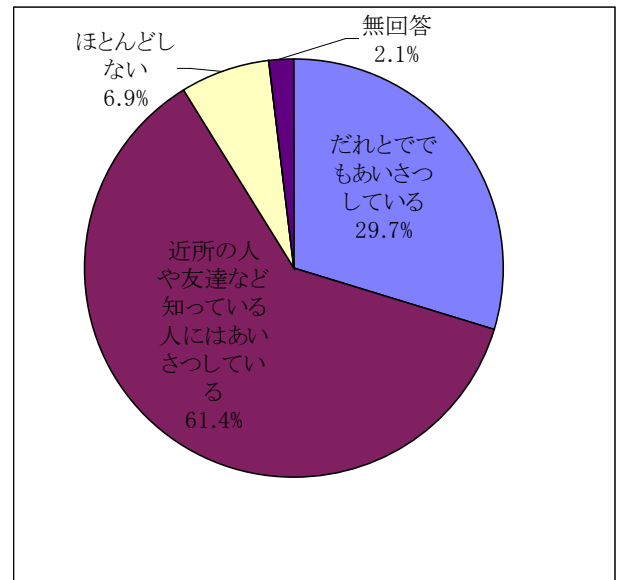


図 3 挨拶の頻度 (参加前)

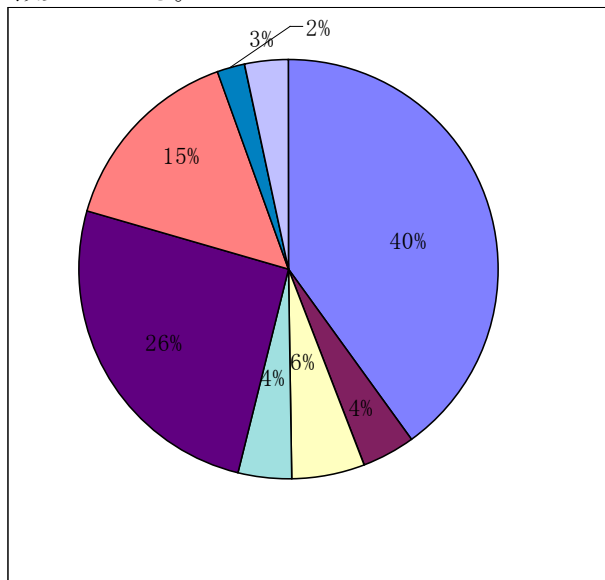


図 1 参加して身に付けたいこと (参加前)

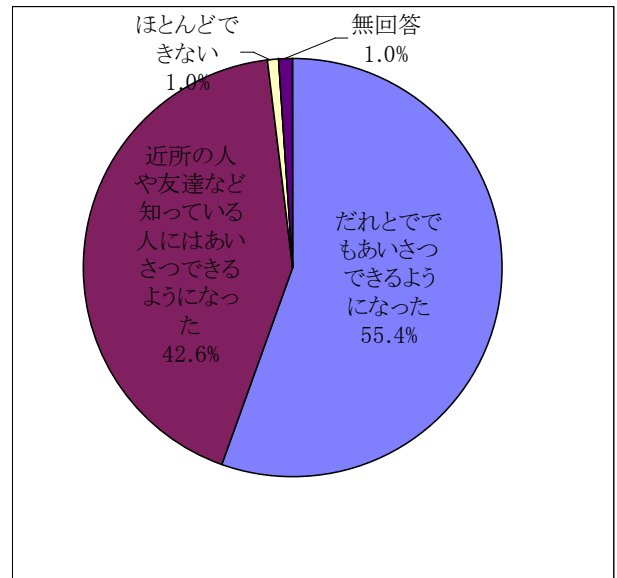


図 4 挨拶の頻度 (参加後)

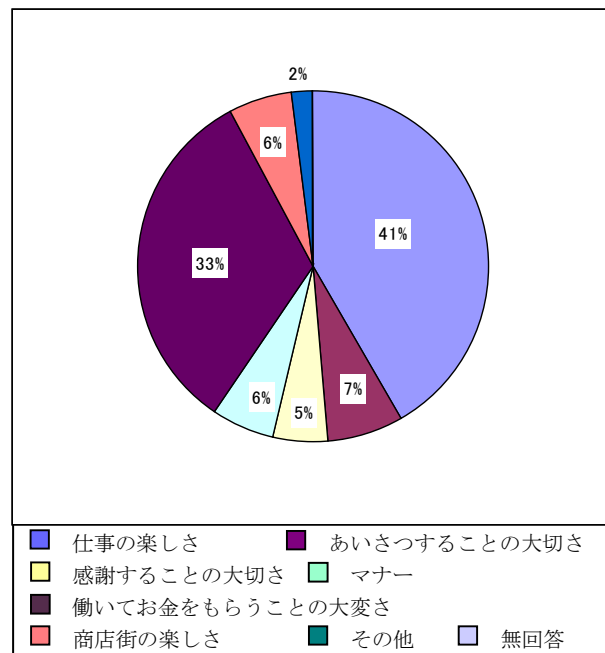


図 2 参加して身に付いたこと (参加後)

5.3 将来やりたい仕事

(1) 将来やりたい仕事がある

参加前は 64.8%であったが、参加後は 72.3%であり、7.5 ポイント増加している。

学年別に見てみると、6 年生は、参加前は 60.7%であったが、参加後は 73.3%であり、12.6 ポイント増加している。

(2) 将来やりたい仕事がない

参加前は 33.8%であったが、参加後は 25.7%であり、8.1 ポイント減少している。

参加回数別に見てみると、2 回目は、参加前は 42.9%であったが、参加後は 20.0%であり、22.9 ポイントと著しく減少している。

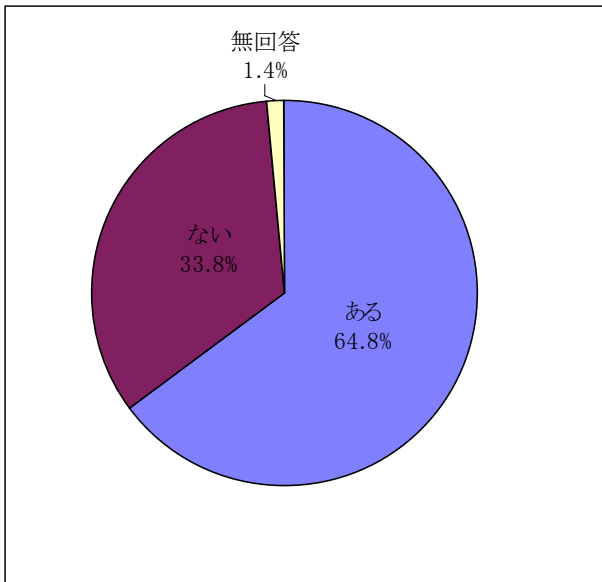


図5 将来やりたい仕事（参加前）

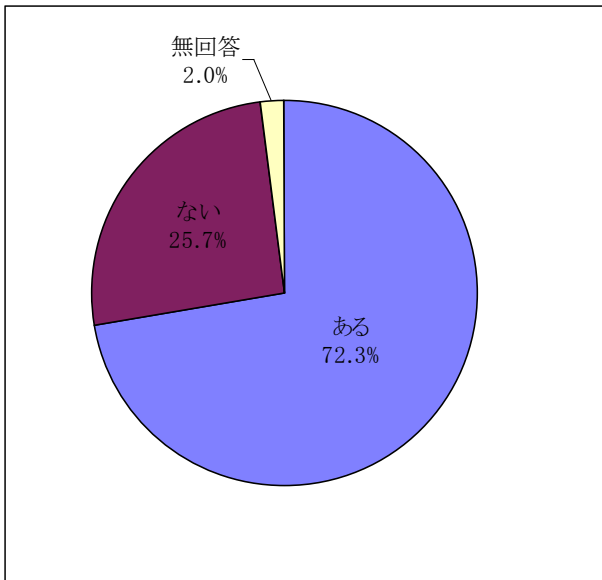


図6 将来やりたい仕事（参加後）

5.4 金銭感覚

(1) 1000円は大金だと思う

参加前は73.8%であったが、参加後は83.2%であり、9.4ポイント増加している。

学年別に見てみると、4年生は、参加前は74.2%であったが、参加後は89.4%であり、15.2ポイントも増加している。

(2) 1000円は大金だと思わない

参加前は13.8%であったが、参加後は8.9%であり、4.9ポイント減少している。

学年別に見てみると、4年生は、参加前は12.9%であったが、参加後は4.3%であり、8.6ポイント減少しているが、逆に6年生は、参加前は17.9%であったが、参加後は20.0%であり、2.1ポイント増加している。

(3) わからない

参加前は11.0%であったが、参加後は7.9%であ

り、3.1ポイント減少している。

学年別に見てみると、4年生は、参加前は12.9%であったが、参加後は6.4%であり、6.5ポイント減少しているが、逆に6年生は、参加前は3.6%であったが、参加後は6.7%であり、3.1ポイント増加している。

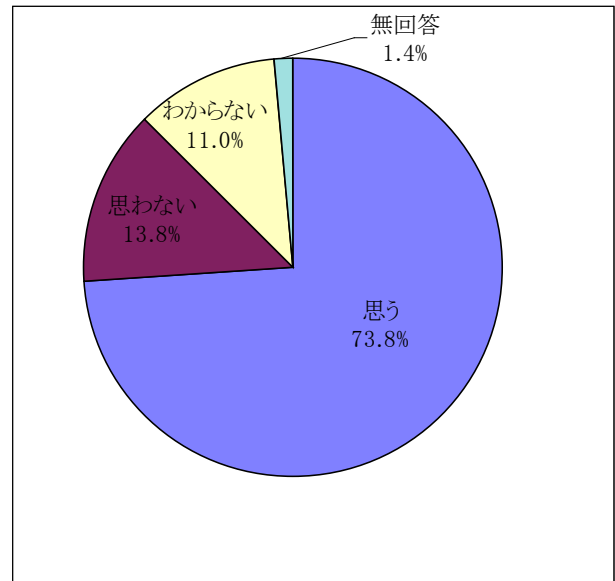


図7 金銭感覚（参加前）

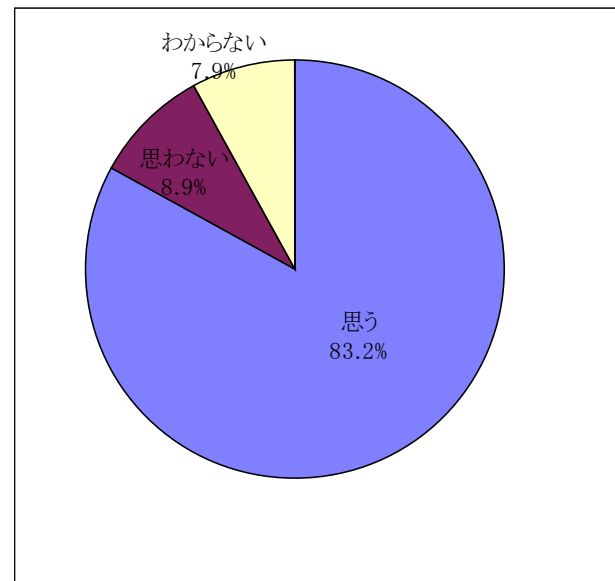


図8 金銭感覚（参加後）

《参考文献》

・山岡美和，2008，わくわくワークるんだ商店街報告，公益信託高知市まちづくりファンド助成事業審査会で発表